

第 22 回対照言語行動学研究会 (JACSLA22) 研究発表 概要

2024. 10. 19 開催 於 東京科学大学

タイトル	「文学の翻訳はいかにして文学となるのか：一人称代名詞と時制の翻訳を中心に」
著者名 (所属)	井上 健 (東京大学名誉教授)
連絡先 E メール	ana47343 [at] nifty.com
論文内容	<p>文学の翻訳の研究が翻訳研究 (TS) において長らく特権的な位置を占めてきたのは、それが翻訳の孕む主要な命題をわかりやすく説き明かしてくれるものだったからである。だが、文学の翻訳がいかにして、ゲーテが提唱した「原作と同等の機能を有する」文学としての翻訳 (日本語で言う「翻訳文学」) になりうるか——その条件や道筋については今なお議論が尽くされたとは到底言い難い。文化的展開 (cultural turn) 以降の TS は、翻訳という営みを、異質な言語と文化がせめぎ合う場として捉え、翻訳を通じて原文が「書き換え」(rewriting) られ、「操作」(manipulation) される過程に作用する、言語的、文化的、政治的、制度的、審美的枠組みの効力に着目する。翻訳の創造性 (creativity) の問題も、もっぱらそうした文脈のもたらず「制約」(constraint) との対抗関係において説かれる。しかし、作家の「創造性」と翻訳における「創造性」がどう絡むかが翻訳文学研究の要諦を成すとして (Boase-Beier & Holman, 1999)、それは「書き換え」や「制約」のみで説明し尽くせるものでは到底なからう。</p> <p>すでに Antoine Berman [1984] が看破したように、異言語という他者と真摯に対峙する「翻訳文学」なる磁場は、母語を錬磨し変容させるまたとない契機をもたらした。翻訳者は翻訳することで、創作の言語の歴史や、原文のハイブリッドな言語世界の様態を追体験する (Steiner, 1993)。近代日本において、「文学の翻訳」がいかにして「翻訳文学」足りうるかが問い直されたのは「洛中書問」論争 (1946) においてであるが、まさしく創作が翻訳的契機を孕み、翻訳が創作的契機を孕むときにこそ、「文学の翻訳」は「翻訳文学」となる。</p> <p>真に「創造的」である言語は、ラングの桎梏を脱した、作家・詩人一人だけの idiolect (Steiner, 1993) とでも呼ぶべき領域に属し、それ自体は「書き換え」を許容しない。だがそれはまた、翻訳を通してのみ明らかにされる言語間の奥深い関係に、個々のラングの枠を超えた普遍的次元にも、またどこかで接合しているはずである。大江健三郎が、すぐれた翻訳者の手を経て「世界のどこにでもその国の言葉の文学として理解されていく」(大江健三郎・河合隼雄・谷川俊太郎『日本語と日本人の心』、1996) 文学を自分は書く、と述べる所以でもある。複数言語に関わる翻訳者が、創作者とは異なる固有の使命を有した存在であるなら [Benjamin, 1923]、翻訳文学研究においては、「翻訳したのはどういう人なのか」(Berman, 1995) が、翻訳者の基本姿勢や能力や視座が、あらためて問われて然るべきであろう。</p> <p>翻訳文学作品の評価においては、翻訳者が原作の個別性と普遍性の織り成す綾にどこまで踏み込めたか、川端康成『雪国』、谷崎潤一郎『細雪』の英訳であれば、日本語の主語の配置や省略にいかに対処し、時制をどう処理したのかが見極め処となる。戦後日本におけるハードボイルド文学の翻訳移入については、その一人称主語と過去時制の訳出法によって、原文とは時に似て非なる、新たな文体を生み出した点が注目される。柳父章が指摘するように、欧文 A を和文 B に翻訳すると、A でも B でもない新たな C が生成されるのである [柳父、2004]。</p> <p>参考文献</p> <p>Berman, Antoine. <i>Pour une critique des traductions: John Donne</i>. Paris: Gallimard, 1995.</p> <p>Boase-Beier, Jean and Michael Holman ed. <i>The Practice of Literary Translation: Constraints and Creativity</i>. Manchester: St. Jerome, 1999.</p> <p>Steiner, George. <i>After Babel: Aspect of Language and Translation</i>. 3rd Edition. Oxford University Press, 1998.</p>